

I 調査研究事業

1. 中国経済の要点～対中ビジネスを見る視点～

イ. 調査の目的

中国経済は大きな転換期を迎えている。世界経済におけるプレゼンスが向上する一方で、世界経済の変動から受ける影響も大きくなってきている。日中経済関係も大きな岐路にさしかかっている。この数年、中国経済における日本のプレゼンスは相対的にではあるが、徐々に低下しつつある。

そんな中、中国経済には、これを動かす独自の方向舵がある。本稿では、「対中ビジネスのリスクとチャンス研究会」での報告をもとに、中国経済の要点を概観し、これを動かす独自の方向舵として、特に、法制、人民元、日系中小企業、人材などに焦点を当てている。そのいずれも対中ビジネスを行なう上で重要な視点であることから、調査目的とした。

ロ. 調査結果の概要

第1章 新しいリーガルリスク・マネジメントの検討～社会的責任を果たす会社経営手法～

中国進出企業は、中国の経済政策的背景に適用した会社の機関設計や内部統制のあり方を考えたリーガルリスク・マネジメントを検討する必要がある。このように言うのは、中国で会社の社会的責任に関する立法や業界の規定が定められて、この中で会社の機関設計に関する指導的な定めも盛り込まれており、ISO26000 に対しても関心が示されるようになってきているからである。会社の機関設計という面においては、従業員取締役・従業員監査役制度がコーポレート・ガバナンスの一つの手段として、さらには和諧社会形成の手段として外資企業に対しても取り入れられるようになる可能性がある。

第2章 円－人民元直接交換市場の実現に向けて

2009年7月、中国当局は人民元を対外決済に使用することを認め、人民元国際化の第一歩を踏み出した。その目的は米ドルへの過度の依存からの脱却にある。一方、国内金融政策への悪影響や人民元レートコントロール困難化の恐れもあるため、海外との間の自由な資金流入や海外市場における自由な人民元レートの形成は当面規制され続け、人民元は海外において不便な通貨であり続ける。従って日本と中国の間のクロスボーダー取引では人民元建てだけでなく円建て取引を増加させることも日中双方の利益に合致する。また銀行間外国為替市場では円と人民元の売買の間にはほぼ100%米ドルが介在するが、米ドルを介在させない円－人民元直接交換市場を実現することも両国の利益となる。

第3章 日系中小企業の中国市場開拓：その現状と課題

日系中小企業の中国市場開拓は着実に進展しているが、その主たる販売先は依然として日系企業に止まっている。このような現状は、日系企業になじみの薄い中国市場の構造と大きく関連している。中国市場は、急成長しており、企業間関係が流動的であり変化も速い。また、中国市場はローエンド需要の規模が大きく、ローカル企業は低価格志向が強い。さらに、未熟な市場である中国には非正規な取引慣行が多数存在している。こうした状況のなかで、高い技術力を駆使してキーパーツを提供している中小企業、もしくは顧客との綿密な調整や積極的な情報共有を徹底した中小企業のほうが、非日系企業向けの販売に成功している。

第4章 企業内部から見る IT 企業の中国進出

現在日本で最も元気、最も儲かっているのは IT 産業だ。潤沢な資金を持つ Game 企業、Smart Phone 企業は急速に海外進出する。しかし、そもそもこれらの企業はこの2、3年の間に急成長したところが多く、日本本社すら内部の組織構成、人事制度が完備されてない企業が多い。こうした企業では海外法人を設立する場合、とりあえず Marketing と開発者がいればなんとかなるという甘い考えが目立つ。対中進出を考える場合、これに加えて、バックオフィスを充実することが肝要である。

第5章 中小企業の海外人材確保と育成～中国の場合を中心に AOTS への提言～

中小企業が中国に進出する際に直面する最大の課題は「現地人材の確保と育成」である。資金力、情報収集能力に恵まれない中小企業はいかに欲しい人材を確保し、育成するのか。中国が長年、海外技術者研修協会 (AOTS) に企業研修生を派遣してきた経緯を検証し、その成果を台湾と比較。一方で現地人材の採用・育成に際し、AOTS の中小企業研修制度を利用した日本企業への聞き取りを実施・分析した。結果、帰国研修生で結成された AOTS 同窓会の活用も有効ではないかとの結論に達した。

第6章 中国経済の最近のリスクとチャンス

中国経済が大きな転換期を迎えている。2011年12月の中央経済工作会議のキーワードは、「稳中求進」(安定成長)であった。「内憂外患」という四語がメディアに目立っている。

物価上昇、不動産バブル、中小企業の経営難、EU 債務危機に代表される世界経済の停滞など、中国経済の国際化が進めば進むほど、内憂と外患が複雑に絡み合う。世界経済は、過去20年間に3度の危機を経験している。1997年のアジア通貨危機、2008年の米国発金融危機、そして、昨今の EU 債務危機である。今中国経済は、この3つの危機を引き起こした要因を内包しつつ、「稳中求進」の道を模索している。本稿では、中国経済と3つの危機との共通項を大胆に仮設してみた。